

経営比較分析表（平成28年度決算）

千葉県 長生郡市広域市町村圏組合（事業会計分）

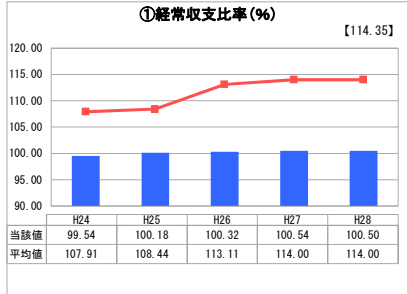
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	55.33	95.10	3,871	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
144,472	331.49	435.83

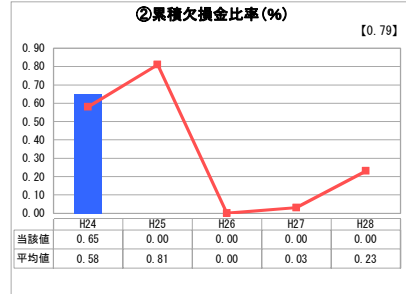
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

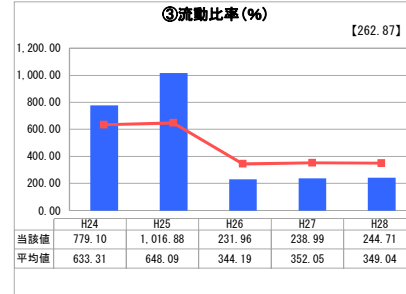
1. 経営の健全性・効率性



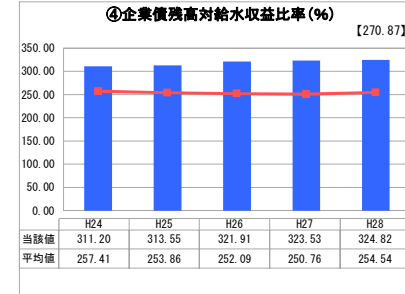
「経常損益」



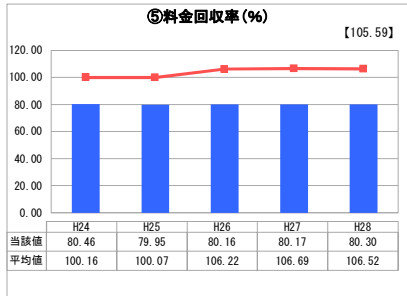
「累積欠損」



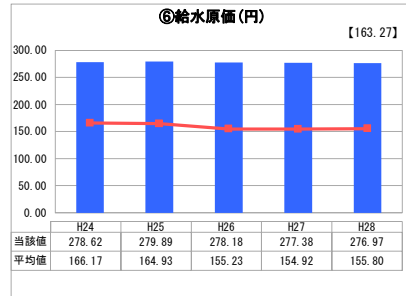
「支払能力」



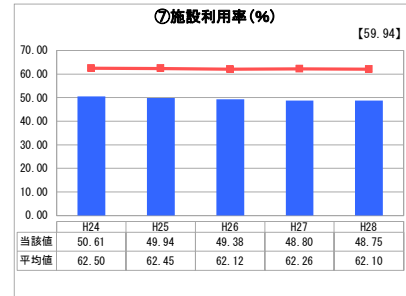
「債務残高」



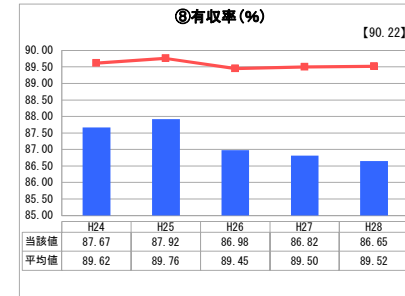
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

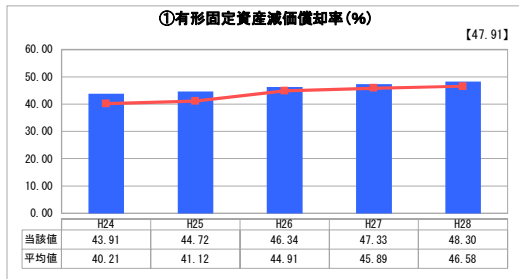


「施設の効率性」

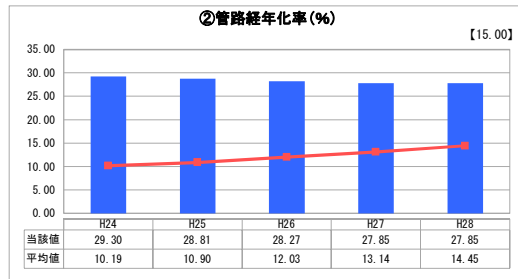


「供給した配水量の効率性」

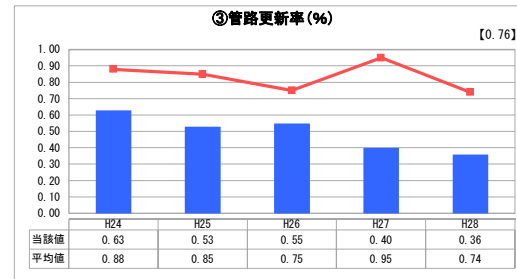
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

行政区域内人口の減少や、節水機器等の普及により使用水量が落ち込んでいることから、給水収益は減少傾向にある。安定した収益が減少しているなか、千葉県、構成市町村からの高料金対策による補助金・負担金等により経常収支の均衡を保っていることから、経常収支比率は100%を大きく上回ることがない。

また、既設水道を統合して給水を開始したことにより、老朽化した施設が多く存在しているため、建設改良事業に係る費用を企業債の借入に依存していることから、企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値を大きく上回っている。

地勢上、水源の確保を利根川水系の用水供給団体から受水することで補っているため、給水原価を供給単価で賄うことができず、料金回収率が80%と低い状況となっている。併せて、給水区域に農村部を多く抱えていることから配水管布設延長に対し配水量が少なく、施設利用率が類似団体平均値を下回っているとともに、老朽化した配水管からの無効水量（漏水量）が多く、経営の効率性を損なうこととなっている。

2. 老朽化の状況について

昭和55年に既設水道事業を統合して給水を開始したことから、老朽化した施設が多く存在しているため、有形固定資産減価償却率や管路経年化率が類似団体平均値を大きく上回っている。

特に管路に関しては、現在石綿セメント管の更新事業を主要施策として実施しているが、既設水道事業時代に埋設された塩化ビニル管等の老朽化が進み、漏水事故等が多みられることから、管路の耐震化に併せて老朽化した管路の更新工事を年間6.7km実施する予定である。

また、浄水場などの水道施設についても既設水道事業時代の施設を修繕して使用しているため、大規模な改修工事が必要となっている。

全体総括

安定した経営を図るためにも、経常費用の5割を占める受水費の削減が必要である。高額な給水原価の配水損失を防ぐため、類似団体平均を下回る有収率の向上が急務であり、漏水調査の計画的実施や老朽化した管路の更新工事を実施する予定である。

また、配水量の減少から低迷する施設利用率を考慮し、建設改良工事を計画的、効率的に実施するため、ダウンサイジングを含めた水道施設の再構築が必要となっている。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。